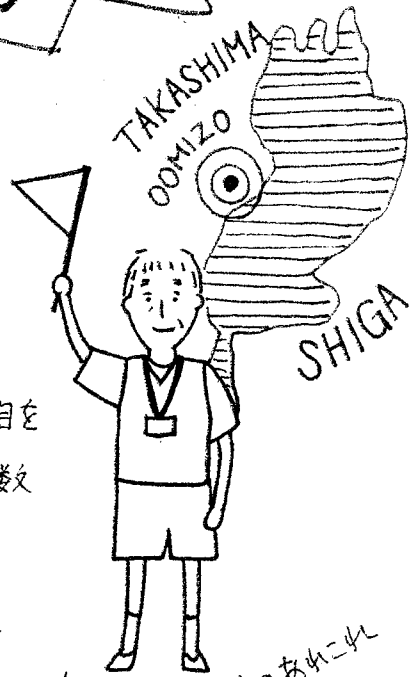


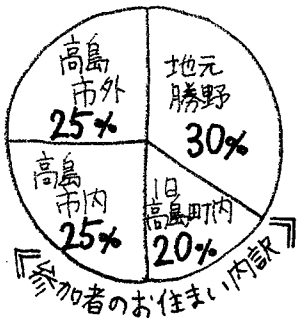
“大溝ぶらり学”  
 盛況です!

地元のことを  
 地元の言葉で...



地元の方が、まちのあゆみなどをお話しするガイドとして活躍しています!

大溝の暮らしや歴史を学ぶ「大溝ぶらり学」。全4回の連続講座で、先日、3回目を終えました。各回30名の定員ですが、いずれの回も定員オーバーの大盛況!参加人数はのべ100名を超えました。ありがとうございます!



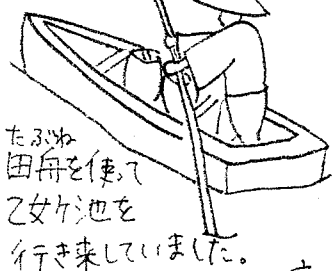
参加者みなさん、大変熱心な方ばかりで、講師の方もお話しに熱がこもり、アツイ勉強会となりました。

各回の内容のダイジェスト、どうぞご覧ください。

第1回  
 7月11日 『乙女ヶ池をめぐる歴史と暮らしを学ぶ』

- ▶ 講師: 仁賀定夫さん(打下)、山本晃子さん(高島市教育委員会文化財課)
- ▶ 打下区民会館で座学のおと、乙女ヶ池周辺へまちあるきしました。

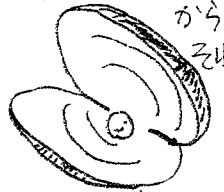
S40年頃まで、打下に住む人々は



たぶね田舟を使って乙女ヶ池を行き来していました。

《概要》乙女ヶ池のあたりは、古代より水陸両方の交通の要衝であり、それゆえに壬申の乱など数々の歴史的イベントの舞台となりました。また、乙女ヶ池とびわ湖に挟まれた砂州状の土地に広がる打下集落では、その地形から独特の暮らし方が展開されてきました。琵琶湖総合開発により、その存在自体が貴重になった内湖。乙女ヶ池は時代の移り変わりを、自らは変わることなく静かに見つめてきたのです。

昭和初期に、真珠養殖場として利用され始めた頃から、それまで



「洞海」「裏海」から「乙女ヶ池」と呼ばれるようになりました。

これまでの参加者の皆さんの声

★いろいろな文献には詳しく書かれたものはありませんが、なかなか一人では学べません。現地を歩き、地元の人々のお話が聞けるのは嬉しいです。人々の生活の中の文化、まるごとの遺跡を学べるのが楽しみです。★自分の住んでいる土地のことを土地の方に教えて頂いてとても楽しく学ばせて頂きました。★初めて歩く道、見る風景があり、写真で見ただけでなく体験することで歴史も深く学びたいと思いました。楽しい時間でした。ありがとうございます。★大溝～勝野は非常に魅力的なまちだと思います。様々な文化・歴史を数々の方々に伝え、後世に残す活動をしていってください。

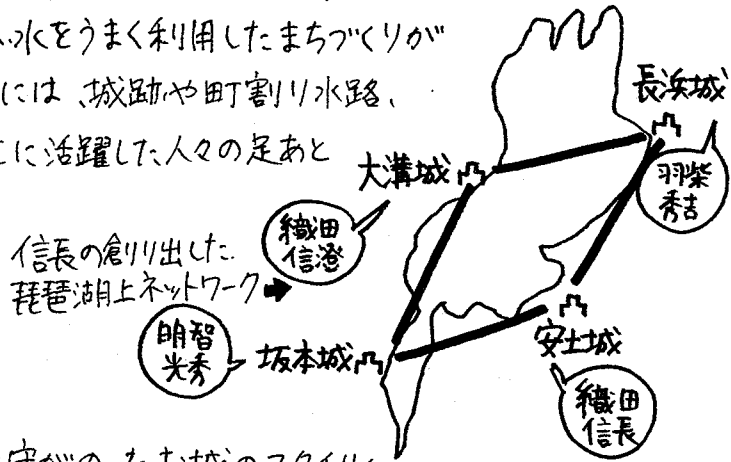
第2回

8月1日

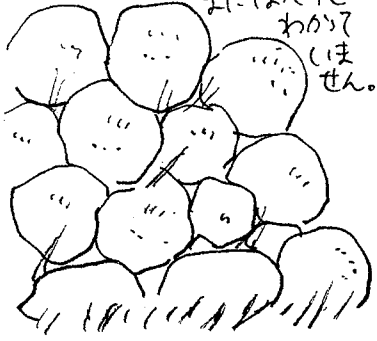
# 『大溝城を学ぶ』

- ▶ 講師: 井上直彦さん(林神)、三宅明さん(林神)
- ▶ 「勝安寺」で座学のと、「旧城下町内」をまちあるきしました。

《概要》 全国統一を目指した織田信長が、戦略の要として築いた、琵琶湖を取り囲む軍事ネットワーク。大溝城はその拠点の一つでした。明智光秀設計による、城下町形成においては、当時世界的にも、高度な水道システムで、水をうまく利用したまちづくりがなされました。今も大溝のまちには、城跡や町割り水路、総門、古式水道など、かつてここに活躍した人々の足あとが数々残されています。



石積みの上に  
どのような天守が  
のっていたかは  
まだはまりと  
わかって  
いません。



シリーズ「おおみそこみそ物語」No.2

## 大溝城址の鬼まか

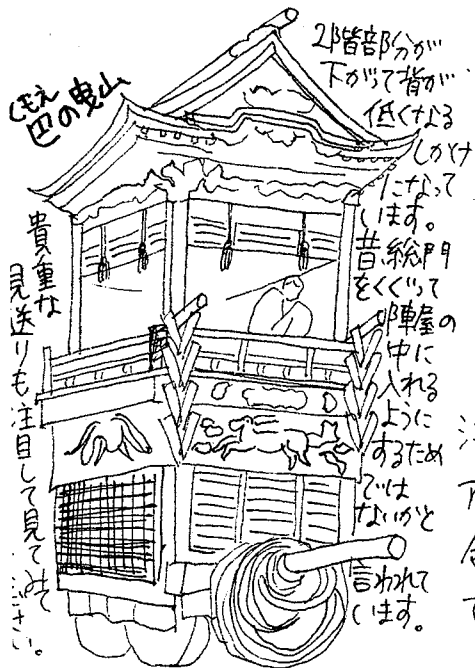
戦国時代までは山城が普通でした。石積みの上に天守がのったお城のスタイルは、信長が琵琶湖周辺に築いた、安土城、長浜城、坂本城、そして大溝城が始まりとされています。大溝城と江戸時代に築かれたお城の石積みを比べてみると面白いことがわかります。大溝城の石積みは、上から下までが直線的で、反り返っていないのです。石積みしか残されていない大溝城址の鬼まかは、まさにその石積みにあります！戦国時代の築城技術を今に伝える貴重な歴史遺産なのです。

第3回

# 9月12日 『大溝祭を学ぶ』

- ▶ 講師: 山田和久さん(巴)、今西仁さん(巴)
- ▶ 白井忠雄さん(高島歴史民俗資料館)
- ▶ 「日吉神社社務所」で座学のと、「曳山巡行ルート」をまちあるきしました

江戸時代より400年続く大溝祭。その裏側には、地元の方のお祭りにかけるアツい思いと努力がありました。これまでの歴史、伝統も守りつつ、時代に合わせてどう変化し、未来に受け継いでいくかは地域全体での大きな課題です。2019年、記念すべき大溝祭400周年の節目の年まであと4年です。



発行: おおみそこみそ古戸所(担当: 神原)  
高島市勝野1400ひれい1号館  
「大溝の水辺景観まちづくり協議会」事務所内

TEL 0740-36-2011  
FAX 0740-36-2012  
MAIL tmcshiga@titan.ne.jp